

□ 現 状

①手術療法

- ・日本内視鏡外科学会 技術認定（消化器・一般外科） 1人
- ・消化器がん外科治療認定医 4人、消化器内視鏡専門医 4人、呼吸器外科専門医 1人
- ・手術件数

区分		2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
腹腔鏡下 手術件数	悪性腫瘍	40	61	62	60	81
	その他	81	74	60	64	72
胸腔鏡下 手術件数	悪性腫瘍	13	16	32	41	38
	その他	24	27	21	17	28

②放射線療法

- ・放射線治療専門医 2人
- ・ライナック1台、IVR-CT1台

③化学療法

- ・がん薬物療法専門医1人、がん化学療法看護認定看護師1人、がん薬物療法認定薬剤師1人
- ・外来化学療法室 8床
- ・無菌病室クラス100 1床（個室）、クラス1000 2床（個室）
- ・無菌病床クラス1000 8床（4床室）

④緩和ケア

- ・緩和ケア病棟（病床） なし



地域がん診療連携拠点病院機能を強化

- ①がんの診断から治療までの高度化
- ②低侵襲のがん治療を行う体制の整備

□ 充実の方向

- 1 医師をはじめとするスタッフの充実（専門医の育成など専門性を向上）
- 2 診断機能
  - ・PET-CTの導入を検討  
※中央病院から市立病院への紹介患者数 H24年度 189件
- 3 低侵襲治療
  - ①手術療法
    - ・内視鏡手術を積極的に実施
    - ・鏡視下手術、ロボット手術に対応可能な手術室の整備
  - ②放射線療法
    - ・IVR-CTを積極的に活用 ※IVR-CT H25.4稼働
    - ・IMRT（強度変調放射線治療）の導入を検討
- 4 化学療法
  - ・腫瘍内科医を中心とした積極的ながん化学療法の実施
  - ・新規薬剤の積極的な導入
  - ・外来化学療法室を拡充
- 5 緩和ケア
  - ・緩和ケア病床を整備
- 6 相談機能の充実

地域の  
「がんセンター」  
としての機能を整備